

What's New From ASCIKU

平素は、当会の活動に際しまして、何かとご高配を賜り厚くお礼を申し上げます。今回のWhat's New From ASCIKUは、会長の私自ら執筆することといたしました。会員の皆様に研究会にご興味を持っていただき、今後の振興会をさらに発展させたく思っております。
 関西大学 科学技術振興会会長 西村 哲郎

2023年度 第4回研究会を関西大学 梅田キャンパス

「KANDAI Me RISE」にて開催 ————— 11月18日（土）



2023年度の第4回研究会は11月18日（土）15時30分から関西大学梅田キャンパスにて、会員12名の出席を集め、総勢24名で開催いたしました。

冒頭、私西村から、念願叶って梅田キャンパスで初の研究会が開催できたこと、新たに会員になられた3つの企業紹介及び初の試みとなる産学官連携コーディネーターの方々より自己紹介をお願いし、今後ますますの振興会の維持発展に協力していける環境づくりを模索していきたいとお話いたしました。

続いて、先端科学技術推進機構長の鶴田浩章先生からも開催のご挨拶をいただきました。

研究会では、新会員様3社による事業紹介と関西大学産学官連携コーディネーターから専門分野等のご紹介をいただき、盛会のうちに終えることができました。

新会員の事業紹介

株式会社アイ・エレクトロライト

代表取締役 社長兼 COO 阿部 一雄 様

株式会社アイ・エレクトロライトは、役員として関西大学の石川正司先生も参画しておられる関西大学発のベンチャー企業です。蓄電池技術分野を通して、持続可能な世界に貢献することを目指し、主に2つの開発分野を中心に活動を進められています。

1つ目は製造時のコストと環境負荷を同時に低減できる水系正極製造技術の開発です。同社の開発したユニークな添加剤を用いた事が技術のポイントであり、有機溶剤の使用をゼロにする事ができます。日本国内の企業をはじめ、海外の電池メーカーとともに、安全で高信頼性を有する新世代蓄電池製造への活用を目指しておられます。



2つ目はリチウムイオン電池の開発です。通常の電解液の代わりに「イオン液体」を用いることで、揮発成分・引火成分を一切排除するアプローチを行っておられます。電池の膨張抑制、発火事故ゼロを可能とし、堅牢な外装構造を有さないパウチ状のリチウムイオン電池の開発を可能としました。その高い安全性により人工衛星にも搭載されています。

今後はより社会実装することで、さらに大きなマーケットにチャレンジされるそうです。

弁理士法人 柳野国際特許事務所

会長・弁理士 柳野 隆生 様



関西大学文学部、さらに法学部ご出身の弁理士の柳野様は、以下の4つの分野にまたがる活動を通じ、知の開発、保全、展開、再生産に至る企業文化としての生態系作りの支援を行っておられます。

アメリカのシリコンバレーでユニコーン起業家を育てることを目指しておられる非常にバイタリティー豊かな方です。知財を担当だけでなく、優れた製品開発においては出資も行い研究開発を指導しておられます。

- ① 経営戦略に直結し、知的資産たりうる権利の確保やブランド政策等の知財権業務
- ② 小さなシーズの掘り起しから、商品化、事業化へと育てる研究開発支援
- ③ ベンチャー育成およびベンチャー系経営開発
- ④ 海外の企業と対等に渡り合える人材育成

社会福祉法人 ぷろぼの

齊藤 晃 様 Scardino Evan 様 武内 博資 様



社会福祉法人ぷろぼの（ラテン語で「公共善、よき社会の実現のために」の意味）様は、障がいのある方の就労による自立した生活の実現を目的にし、奈良を拠点に活動を広げられています。

一般企業に就職し働いて自立した生活を応援する就労訓練、福祉的な支援を受けて希望する職種で働くことができる場の提供、古都奈良を大切にする活動として地域や学校、企業やNPOなどと連携する地域貢献を行っておられます。

好きな活動に対しての画期的な発想や行動力は障がいのある方たちが持ちうるパワーといえます。その力をもって、近年ではDX（デジタルトランスフォーメーション）やAI（人工知能）での開発などで優れた社会貢献ができています。

研究会では『文字入力から想像される高品質画像を生成』するAIソフト「Midjourney」を使用したデモンストレーションが行われ、「Let's enjoy the year-end party」と入力してAIが描いた4枚の絵を表示し、拡大・修正も可能であるとの説明があり、出席者の注目を集めていました。



社会福祉法人 ぷろぼの

ICTの困り事なら、私たちに任せください

障がいのある方を人材として見直し、雇用してみませんか？

ChatGPTを御社でも活用してみませんか？

プロダクティング 案件に合わせたAI生成が便利です！

プロンプトを上手く調整すれば効率が飛躍的に向上します！

新会員様の事業紹介に続き、大学の研究陣と科学技術振興会との間を取り持つ産学官連携コーディネーターより、自己紹介、専門分野と担当する日々の活動内容についてのご説明をいただきました。

池谷 章氏 先端科学技術推進機構担当

34年務められたパナソニックでは、ソニーと協力してDVD規格の統一化とISO規格の策定に貢献されました。退職後は、九州大学とJSTで合わせて5年間、産学連携の仕事をされたのち、2020年に関西大学に着任されました。

関西大学では、I（情報・通信・電子）研究部門とE（環境・エネルギー・社会）研究部門を担当されており、特に食料とエネルギー関連を中心に活動されています。



井上 一生氏 知財担当

1985年パナソニックに入社されてから液晶関連の仕事を進め、その後2001年から2020年まで知財担当になりました。弁理士の資格を取得され、国際出願などに従事されました。2020年より関西大学に着任されてからは、電気電子系、コンピューター系の講義やプログラム取扱規定の作成や指導にもあたられています。併せて、特許出願や拒絶理由対応の業務を担当。

2020年から2023年の間に大学で担当・応答した出願全てで特許査定を得られておられ、「勝率100%」を誇っておられました。

高間 利夫氏 知財担当

塗料メーカーに就職し、バイオ関係で「黒カビ」の研究に従事されていました。その後、医療機器の企業で化学発光、免疫測定など糖尿病診断、心臓マーカー、イムノクロマトなどを開発。その後の12年間は、知財担当として周辺特許調査や特許係争を経験されました。

関西大学では、教員へ知財の重要性を指導され、特にバイオ系の特許出願を進めて活発化させたいと意気込んでおられました。



巽 俊二氏 先端科学技術推進機構担当

京都大学で化学を学び、繊維関係の企業でアクリル繊維の研究開発に取り組んでこられました。自ら「伸縮する電線」を開発し、事業化を目指されました。

「地図に無いものを探す」という経験が、関西大学との関係が生まれた由縁とのこと。振興会へは視線を変えた活動、助言が出来ればと考えてくださっています。また、カーボンニュートラル問題に対応していきたいとも語っておられました。

藤野 千代氏 先端科学技術推進機構担当

三菱電機の先端技術総合研究所で磁気、流体、熱応力の設計に携わってこられました。同時に、奈良女子大学の社会連携センターでの活動も始められたそうです。その後、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）でも活躍され、これまで研究開発だけでなく、文科省や銀行等の審査委員まで幅広い経験を積んでいられています。

現在は、先端科学技術推進機構が発行する研究・技術シーズ集の新規シーズ収集や国プロ申請支援にも注力されています。



松井 由樹氏 社会連携担当

関西大学経済学部出身で漫画家にチャレンジするも東京衝機製造所に就職して試験機を販売。関西大学にも納入実績をお持ちです。中小企業診断士の資格を取得され、大阪TLOの業務もしておられます。

2004年からコーディネーターの傍ら、ビジネスマナー等の講演や指導もされているそうです。

山本 道治氏 先端科学技術推進機構担当

日東電工で有機ポリマーの研究を担当され、その間にアメリカの研究所にも長く勤務されました。ホログラムの研究では、科学誌ネイチャーの表紙に掲載されたこともあるそうです。

奈良先端科学技術大学院大学から大阪公立大学を経て関西大学にご着任。関大では、学術発表が先行してしまい知財出願のチャンスを逃していたり、産学共同研究の連携が手薄になったりすることを危惧しておられ、強化していきたいと語っておられました。



振興会の活動にも積極的に関わってくださっているコーディネーターの方々の略歴やお人柄に触れる貴重な研究会となりました。

関西大学の優れた先生方との共同研究を希望する場合に、コーディネーターの皆様のお力添えをいただきたいと感じました。

忘年会のーコマ

